

「そのだ」の地域連携 vol.5

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部

2017（平成29）年



経験値教育

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部

地域連携推進機構

〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1

Tel : 06-6429-9921

Fax : 06-6422-8523

E-mail : chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp

ホームページ : <http://www.sonoda-u.ac.jp/chiki/>

「そのだ」の地域連携 Vol.5 目次



地(知)の拠点整備事業(平成28年度評価)・・・・・・・・・・・・・・・・	4
学長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・	5
尼崎市事業所の「健康経営」を紹介!・・・・・・・・・・・・・・・・	6
若者の自殺予防!私達にできること・・・・・・・・・・・・・・・・	6
共に成長する場「スマイルカフェ」・・・・・・・・・・・・・・・・	7
まちの保健室・・・・・・・・・・・・・・・・	8
そのだスポーツ栄養ナビステーション・・・・・・・・・・・・・・・・	9
ママカフェ・・・・・・・・・・・・・・・・	10
尼崎市100周年すごろく・・・・・・・・・・・・・・・・	11
小学校外国語(英語)活動実習・・・・・・・・・・・・・・・・	11
Super Sweets in Amagasaki・・・・・・・・・・・・・・・・	12
季節の果実を使ったスイーツレシピ・・・・・・・・・・・・・・・・	13
経験値評価システム・・・・・・・・・・・・・・・・	13
そのだ子育てステーション・・・・・・・・・・・・・・・・	14
「お姉ちゃん先生と遊ぼう」・・・・・・・・・・・・・・・・	15
「子育て・子育て講座」・・・・・・・・・・・・・・・・	15
出張体験授業や学校見学の実施・・・・・・・・・・・・・・・・	16
兵庫県と就職支援協定を締結・・・・・・・・・・・・・・・・	17
図書館の地域開放・・・・・・・・・・・・・・・・	18
所蔵資料(含絵画資料等)の貸与他・・・・・・・・・・・・・・・・	19
三重県熊野市とのコラボ講座・・・・・・・・・・・・・・・・	20
公開講座・・・・・・・・・・・・・・・・	21
シニア専修コース・・・・・・・・・・・・・・・・	21
オセアニア地域交流プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・	22
カンタベリー大学教育比較研修・・・・・・・・・・・・・・・・	23
日本語スピーチコンテスト・・・・・・・・・・・・・・・・	23
尼崎市立杭瀬小学校との連携事業・・・・・・・・・・・・・・・・	24
学生による高齢者支援プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・	25
大岡山プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・	26
園田北まちづくり協議会・・・・・・・・・・・・・・・・	27
尼崎市との連携協定・・・・・・・・・・・・・・・・	28

経験値教育・大学の社会貢献	29
「尼いも」と園田学園女子大学	30
宇宙飛行士、尼崎に降り立つ	31
まちづくり解剖学	32
まちの相談室	33
防災・減災を	33
平成 29 年度地域志向教育研究	34
平成 29 年度つながりプロジェクト	36
つながりプロジェクト授業風景	38
学園祭『けやき祭』	40
学生地域連携推進委員会（通称：つな Girl）	40
テニス部が行っている地域連携活動	41
ソフトボールクリニック（但馬）	41
神戸マラソン 大会ボランティア	42
チアリーディング部での地域での活動	42
女子野球の聖地・富山県魚津へ！！	43
サークル「アオラキ」	43
インターアクトクラブの献血推進活動	44
「王将前夜祭」参加	44
養護実践研究会「スマイルズ」の活動	45
シグマソサエティクラブ わらべうた研究会	45
近松人形劇部	46
七夕まつり	46
学生の声	47
大学 COC&COC+	52
編集後記	54



平成28年度評価 評価結果

選定年度	平成25年度	整理番号	42
大学等名称	園田学園女子大学		
事業名称	<地域>と<大学>をつなぐ経験値教育プログラム		

（「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による評価）

<p>（総合評価）</p> <p>S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。</p>
<p>【コメント】</p> <p>【優れている点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちの相談室」において地域のニーズを発掘し、また、行政・産業界（商工会議所等）と対話しながらプログラムを開発しており、21のプロジェクトからなる「つながりプロジェクト」の平成28年度における新設など、地域との関係構築が教育に的確に反映されていることは評価できる。 ・「まちの相談室」は人間形成にも役立ち、カリキュラムにも反映できる優れた仕組みであり、評価できるとともに更なる拡充が期待される。 ・極めて真摯に地域志向のアクティブ・ラーニングに取り組んでいる。「つながりプロジェクト」を2年次の通年の必修科目として新設するに当たり多大な努力が見られる。また、本学が専門職養成系の大学としての特質を強化していくに当たり、本事業が確実に位置付けられており高く評価できる。 ・学修成果指標として掲げる「経験値」等を踏まえ、事業が目指すものを的確に具現化した新しい仕組みを構築している。

これまでの積極的な取り組みの結果、
地（知）の拠点大学による地方創生推進事業の
「平成28年度評価」にて、
「S」評価を受けることができました。

地域連携により大学としての使命を果たす

「学校教育は地域社会の協力があって初めて成り立つ。学内だけに閉じこもってできるのではない。広く開放して地域住民と同じ呼吸をしていなければならない」という地域社会に開かれた大学をめざす使命は、数々の施策と教育改革によって、本学で着実に具現化されてきています。そして、平成25年、本学が尼崎市の学びの中心として、地域活性化と地域創生の核となる大学であると認められ、文部科学省の選定をうけた「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」にしっかりと継承され、平成28年度の中間評価では、私立大学で唯一、本事業の目的を十分に達成することが期待できるとしてS評価をいただきました。これもひとえに地域の皆様のご理解とご協力のたまものと感謝しております。

現在、建学の精神「捨我精進」を基盤とし、大学の理念である「経験値教育により他者と支えあう人間の育成」に沿った人材の育成をめざし、学生は、教職員と共に地域へフィールドワークに出て、地域社会の人々と共に地域で学び、地域に学び、地域への学びの還元等多くの貴重な経験を積み重ねています。これらの成果の積み重ねが学生にとって、社会で生き抜く知恵となり、「主体的に、多面的に課題に向きあい、社会で輝き続ける女性の育成」の醸成、さらに「学び、輝き続ける社会の実現」へ繋がっていくと期待しています。

今後も、地域社会との連携を柱にし、「地域とともに歩む大学」としての使命を果たすための努力を誠実に積み重ねていきたいと思っています。

この冊子は本学の地域連携の取り組みをご紹介します。ぜひともご高覧いただき、本学へのご理解とともに、今後のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



学長・地域連携推進機構 機構長 川島 明子



尼崎市事業所の「健康経営」を紹介！

連携先：尼崎市経済活性化対策課 尼崎市内事業所
担当部署：人間健康学部 総合健康学科 江崎ゼミ



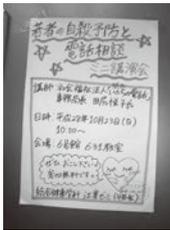
「健康経営」とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです（経済産業省HP）。健康経営に積極的に取り組んでいる尼崎市内の企業8社に訪問インタビューを行いました。感想を以下の2点にまとめました。

- *インタビューした全ての会社において、従業員同士の仲の良さが1番に伝わってきました。そして社長の、従業員に健康になって欲しいという願いや気遣いが健康経営に繋がるのだと思いました。
- *社長が従業員一人ひとりの健康問題と向き合っておられるところが印象的でした。私たちが目指す職業に、この一人ひとりと向き合うということが大きく関わってくるのでとても勉強になりました。



若者の自殺予防！私達にできること

連携先：兵庫県いのち対策室 関西いのちの電話 地域住民
担当部署：人間健康学部 総合健康学科 江崎ゼミ



平成27・28年度に兵庫県いのち対策室主催の若者の自殺予防支援補助事業に応募し、活動しました。日本全体の自殺率が低下している中で、若者の自殺率は上昇しています。私たちに何ができるのかという課題意識を持ちながらの活動でした。活動内容は、大学祭でのキャンペーンとミニ講演会、自殺予防をテーマにした授業、専門家を招聘しての研修会、学生の意識調査等です。そして、活動の成果を「まちづくり解剖学」で2年続けて発表しました。ここでは、地域の方から励ましの言葉や花束をいただき感激しました。そして、地域の方々に現状を知っていただき、共に考えていくことが自殺予防の第一歩なのだ実感しました。



共に成長する場「スマイルカフェ」

連携先：尼崎市立地域総合センター神崎 尼崎市立中学校
担当部署：人間健康学部 総合健康学科 江崎ゼミ

「スマイルカフェ」は、「NPO 法人スマイルひろば」が、尼崎市立地域総合センター神崎で、週2日（月・木）放課後にオープンしている中・高校生の居場所です。平成27年10月にスタートしました。平成28年度は「つながりプロジェクト9」のフィールドとして2年生5名が活動しました。そして、平成29年度は3年生6名が活動しています。活動開始前には事前学習を行ったり、活動中は毎回の振り返りを口頭や活動記録等で行ったり、経験値教育のプロセス評価を大切にしています。

子ども達（中学生）や学生の様子

毎週月・木曜日の午後3時半すぎから子ども達が三々五々集まってきます。過ごし方は自由で、まず軽食や飲み物で一息ついた後、トランプやボードゲームをしたり、スタッフとおしゃべりしたり、一人で読書したりと様々です。学生はスタッフと協力しながら、軽食・飲み物を出した後は、ゲームやおしゃべりの相手をします。つまり、観察しながら関与していきます。最初はどうか分らず戸惑う様子が多く見られましたが、スタッフのアドバイスや促しで、次第に自分から関われるようになり、今では、学生に悩みを打ち明ける子どももいます。

学生の振り返り（活動記録より）

* 私たちが緊張していると同じように生徒も緊張しているから私たちから話しかけることが大切だと思った。
* どのように関わり、接していけばいいのか課題が見つかった。毎回、目標を持って楽しみながら活動したい。

今後の予定

「スマイルカフェ」は地域の子ども達と学生が共に成長する場であることを実感しています。2学期も引き続き活動する予定です。





まちの保健室

連携先：兵庫県看護協会

担当部署：人間健康学部 人間看護学科（まちの保健室推進委員会）

人間看護学科開設時から、毎週水曜日午後（不定期に閉室日あり）に住民の方を対象に身体測定・血圧測定・健康相談やミニ講話、予約制の骨密度測定、動脈硬化度測定、健康増進プログラムを実施しています。また、春と秋には「まちの保健室実習」の場として、2年生が7~8人のグループに分かれ実習を行い、来室者の方の健康観と保健行動の関連やヘルスプロモーションについて、学んでいます。来室の皆さまは、応援団的存在であり、温かく見守ってくださっています。

まちの保健室「拠点型」

まちの保健室は、連携で述べた「拠点型」と地域に向向く「出前型」の2つのスタイルで、開設当初から実施しています。拠点型は、毎回20人程度の住民の方が来室されており、リピーターも多い状況です。運営は、教員3~4名に兵庫県看護協会のボランティア看護師が4名加わり、連携しながら実施をしています。

今後も学生の実習の場としての機能を維持しつつ、来室状況からみたまちの保健室の機能・役割を評価し、発展させていきたいと考えています。

まちの保健室「出前型」

出前型は、毎年10回程度地域に出向いて健康相談やミニ講話などを実施しています。現在は、市内の地域包括支援センターからの依頼に応じる形で、実施しています。

今後に向けて、本学が行う地域貢献としてのまちの保健室出前型のあり方を模索しているところであり、幅広い世代の住民の方に参加してもらえるものとして、29年度は試行的に本学学園祭である「けやき祭」において「まちの保健室」の開設を行うことにしています。この場で住民の方の「まちの保健室」への期待や思いをお聞きし、ニーズにあった「出前型」のあり方の具体化を図りたいと考えています。





そのだスポーツ栄養ナビステーション

担当部署：人間健康学部 食物栄養学科

選手のカラダを食事でプロデュースすることを目的に、食物栄養学科の学生が主体となって、選手を支えます。学生が選手をサポートすることでスポーツ栄養のみならず、指導力の経験値の向上も目指しています。



《開設目的》

- ◆選手のパフォーマンス向上
選手のベースライン調査として身体組成や消費エネルギーの測定をします。
- ◆ケガをしない身体づくり
日常のコンディショニングの把握するために、個人データ管理をします。
- ◆競技種目に応じた栄養管理、食事管理は、簡単なソフトで選手個々が管理できるシステムとスマートフォンからの情報を受け取り食物栄養学科の学生がアドバイスを送り相談に応じます。



《活動内容》

- I. スポーツ栄養ナビシステムを用いて、自分の食べ方を検証し、アスリートの適切な食事量と食べ方をアドバイスします。
- II. 梅雨・夏場に向けての脱水症対策を実施いたします。



《測定機器》

栄養アセスメントに必要な測定機器設置しています。
体組成・骨密度・ヘモグロビン推定値・乳酸・血糖・筋硬度・体温・血圧等の測定実施いたします。

今後は、地域の選手のサポートや運動や食事サポートが必要な生活習慣病予防の場として活用を行います。

また、栄養クリニック開設に向け、住民の方々に広く利用いただけるよう、学生の経験値も積み重ねていきたいと考えます。



ママカフェ

連携先：尼崎市園田地域振興センター、尼崎市こども政策課、NPO 法人やんちゃんこ
担当部署：人間教育学部 児童教育学科

ママカフェ事業は尼崎市園田地域振興センターにおけるウェルカムパーティー事業と協働し、平成 26 年 5 月より開始しました。大学と地域振興センターが企画運営を行い、毎月 1 回の 9~10 か月健診時に合わせて開かれている子育てサロンです。毎回、大学の教員と学生 2 名から 8 名程度が参加し、地域のお母さん方と交流をしています。学生たちは、乳幼児期の子どものふれあひから発達を学んだり、お母さんとの交流を通して子育ての大変さや保護者理解と支援の実際を学んでいます。



ママカフェ事業は、子育て情報の発信や出会いの場を提供し、地域活動へ参加するきっかけ作り、さらに、地域を支える新たな人材発掘や育成につなげていくことを目的としています。27 年度より毎回、地域の子育て支援団体や支援者を招いて子育てにかかわるプログラム（工作、リトミック、人形劇、認定子ども園についてなど）を行っています。昨年度は 1 年間で 124 組 249 名の親子が参加くださり、お母さん方からは、親子で楽しめてよかったというお声を多数いただいています。

今年度も同様に、絵本、手遊び、そして本学わらべうた研究会メンバーによる親子で楽しめるわらべ歌などを行いたいと思っています。並行して、お母さん方の日頃のちょっとした疑問や心配事にお答えする発達相談や子育て相談も実施できればと考えています。

また、今年度より、企画運営に NPO 法人やんちゃんこさんにも加わっていただくことになり、プログラムの内容もさらに充実し、お母さん方のニーズにあった魅力あるサロンへと進化しています。学生にとっては、親子の触れ合いをとおして、子ども理解や母親理解を深めるとともに、遊びの提供や展開を実践できる学びの場となっています。



尼崎市 100 周年すごろく

連 携 先 : 尼崎市企画財政局市制 100 周年記念事業担当
担当部署 : 人間教育学部 児童教育学科 大江ゼミ



2016年に市制100周年を迎えた尼崎市の要請で、大江ゼミの3、4年生21名が、市内小学校児童全員に配布するA2サイズの歴史すごろく「われら尼っ子100th あまろく」を作成しました。武庫川と猪名川に挟まれ、阪急・JR・阪神という鉄道が横断する市域をイメージした背景をデザインし、尼崎ゆかりの品のイラストも学生が描きました。市制発足の1916年をスタートに、マスには街が拡大する様子や自然災害などを盛り込んでいます。2001年「新人お笑い尼崎大賞が始まるー発ギャグをやる」など楽しみながら市の歴史をたどれるよう工夫しています。これからも郷土学習の教材となることを願っています。



小学校外国語（英語）活動実習

連 携 先 : 尼崎市こども青少年局児童課、近隣小学校こどもクラブ
担当部署 : 人間教育学部 児童教育学科 衣笠知子ゼミ



児童教育学科では、平成22年度より、「小学校英語セミナー」や「ハロウィン出前授業」など小学校英語に関する地域連携活動を行っています。

さらに平成24年度からは、小学校英語関連科目を履修する学生や衣笠ゼミの学生が近隣の小学校こどもクラブに出向き、外国語（英語）活動実習を行っています。昨年度は、平成29年3月10日に、尼崎北小学校こどもクラブの低・中学年の児童を対象に実施しました。児童の発達段階に合わせた内容で、英語圏の唄遊びや英語紙芝居などを行いました。児童は、学生と一緒に唄遊びを楽しみ、英語紙芝居に聞き入ってくれました。

平成29年度も、平成30年2月頃に実施する予定です。



Super Sweets in Amagasaki

連携先：尼崎商工会議所

担当部署：生活文化学科 製菓クリエイトコース

スーパースイーツ アマガサキは尼崎商工会議所が実行委員会を主催し、「スイーツの街・あまがさきをPRする事で、イメージの刷新、地元への愛着を高め、地域活性化に貢献する」を事業主旨にあげています。2012年度より教職員と学生がボランティアとして参加し、ホテルでのスイーツイベントや、本学実習室を使用したケーキ教室など、年度によって規模は違いますが、毎年学生20人程度と教職員4人が参加し、お手伝いをしています。

尼崎市内のパティシエが活動の中心となり、洋菓子に関するイベントを提案し、実行委員会が企画実施をおこないます。2015年度は本学の実習室でお菓子教室を開催しました。小学生を対象とし、パティシエの指導のもと、クッキーに好きなデザインを施し、巨大なお菓子の家を製作しました。学生達は補助として参加し、気配り、人から聞き、伝えることの大切さを知り、コミュニケーションの重要性をあらためて理解したようです。

2016年度は尼崎市市制100周年という節目で、計画段階から本学より教職員2名が実行委員として参加しました。市内のホテルを会場とした親子ケーキ教室や、有名パティシエ参加のトークショーなどエンターテイメント色の濃いイベントが企画され、参加希望者が多数となり抽選になるほどでした。学生は、ケーキ教室で指導に当たられるパティシエの方々の補助として参加しました。トークショーでは、150名のお客様にデザートプレートが提供され、案内係、デザート盛り付け係に分かれて緊張しながらも作業を行いました。

終了後、パティシエの方々に職場環境や仕事内容など熱心に質問する学生に対し、親切丁寧に対応して頂き、学生本人の将来象が具体化でき、それに備える心構えもできたようでした。スーパースイーツは地域貢献ができ、学生達も成長できる素晴らしいイベントであり、これからも継続して参加させて頂きたいと思えます。





季節の果実を使ったスイーツレシピ

連携先：尼崎市地方卸売市場

担当部署：短期大学部 生活文化学科 製菓クリエイトコース

尼崎市公設市場とのコラボ

活動期間平成 26 年 10 月から平成 29 年 3 月まで
尼崎公設市場より、季節のフルーツを使用したスイーツ
レシピ企画のお話があり、コースの教員と学生が毎月、旬の食材を使用したスイーツの提案をする活動を行ってきました。参加学生は毎回 3 人程度で、メンバーは固定せず、多くの学生が関わられるような体制をとりました。

旬の食材を決め、どのような形にするのか提案し合い、内容を決定します。夏はムースやゼリーなどのあっさりとしたデザート、冬であれば温かい飲み物に合う焼菓子やタルトなど、季節感を取り入れたスイーツを製作しました。何度か試作を行い、完成したレシピや写真、学生からのアドバイスは、尼崎公設市場のホームページ「市場×大学」のコーナーで公開されています。

旬の食材を扱うことにより、それらが持つ本来のおいしさを再認識するとともに、あまり目を向けていなかった価格動向についても、勉強するいい機会となりました。



経験値評価システム

担当部署：地域連携推進機構

本学では、「知識」を「知恵」に変える「経験値教育」を特色とし、地域を志向する教育を充実させる「経験値評価システム」を構築しました。「経験値」は、通常の成績評価や観点別の指標とは異なり、地域においてどれだけの「経験」を積み、人間力を高めることができたかを学生が実感できる指標としました。「つながり評価」では教育課程での地域活動において、人と人のつながりを可視化することを一つの指標と考えます。一年間でどれだけの人とつながりを持つことができたかを定量的に示し、地域の方や教員からのコメントをデータベース化し、「アセスメント（自己評価）」と第三者の評価を合わせて総合的な評価を行います。



そのだ子育てステーション

担当部署：短期大学部 幼児教育学科

2017年4月、3号館1階にそのだ子育てステーション「びよびよ」ができました。文部科学省の補助金を得て購入したドイツ製の木の室内大型遊具（滑り台・おうち）、壁面遊具、その他木製玩具等、子育て支援施設としては、他では見られない大変充実した内容の遊具が揃っています。4月11日より毎週火曜日と金曜日の10:40～12:10を「びよびよ広場」として開放すると、地域の親子（0～3歳）の皆さんにゆったりと遊べる場として喜んでいただいています。

びよびよ広場

「びよびよ広場」はオープンから3か月後の7月には、登録親子が100組を超えました。リピーターの方が新しい友だちを連れてきてくださり、輪が広がっています。木製遊具が中心ですので、木から伝わる温もりで大人も子どももほっとできる場所となっています。

また、「びよびよ広場」には学生がボランティアとして参加しています。当初は、初めて出会う子どもたち、保護者の方に緊張している学生がほとんどでしたが、回を重ねるにつれて自然体で臨めるようになっていきます。そして、授業で学んだ乳児の育ちや子どもの気持ちに寄り添うことなど、体験を通して学んでいます。また、学生にとっては、子どもたちの前で手遊びをしたり、絵本を読んだりする貴重な場となっています。

講演会など

7月21日（金）には、こどものとも社の後藤先生をお招きし、絵本についての講演会を開催しました。秋には、本学堀田教授による「幼児期のメディア接触について」の講演会も予定しています。今後も地域の子育てに貢献できるように、育児相談等の新たな取組について検討したいと考えています。





「お姉ちゃん先生と遊ぼう」

連携先：尼崎市立地域総合センター上ノ島分館
担当部署：短期大学部 幼児教育学科 馬場ゼミ



幼児教育学科2年次生後期の幼児教育研究の授業では各教員の各専門分野を学生が自ら選択し、希望する研究テーマを深めていくという取り組みを行っています。馬場ゼミでは、地域の子育て支援を行い、実際の就学前の親子との触れ合いを通して、保育実践力及び保護者支援の経験値を高めていくことを目指しています。

2016年度は11月9日に尼崎市立地域総合センター上ノ島分館にて「お姉ちゃん先生と遊ぼう」を実施しました。企画(保育内容)・製作(手作り教材)・プログラムの作成(チラシ配布)・保育演習・実践・振り返りを通して、学生は体験を基にした学びを得ることができました。初めは緊張していましたが、子どもたちや保護者の方の笑顔に自信を持たれた様子も見られました。



「子育て・子育て講座」

担当部署：短期大学部 幼児教育学科、総合生涯学習センター



「子育て・子育て講座」は2017年より現在の水曜日前期8コマ後期8コマの開講となり、幼児教育学科の教員がそれぞれの専門性を活かした講座を開講しています。また、本年度3月より新しい「そのだ子育てステーション」が開室したことから講座の開講場所も新しい部屋に変わり、定員が1歳半から4歳の乳幼児15名に増員となりました。2016年度は「親子クッキング」、「目指せオリンピック(幼児体育)」、「親子リトミック」、「とびだすサンタづくり」など多彩な内容を楽しんでいただき、保護者の方からも「とても良かった。」との感想をいただくことができました。今後も新しい玩具や新しいお部屋でより楽しい講座をと考えています。



出張体験授業や学校見学の実施

連携先：尼崎西高等学校、東灘高等学校、宝塚東高等学校など
担当部署：入試広報部

入試広報部では、高大連携協定に基づき連携を結んでいる高等学校（連携校）を含め、各高等学校からの依頼により、毎年、多数の高等学校に対して体験授業やガイダンス・施設見学を実施しています。（平成28年度 体験授業：7校9講座 ガイダンス・施設見学：3校5回）体験授業を受講する高校生は、通常1講座20名前後の場合が多いのですが、本学の教員が高等学校に伺って行う出張授業では、1クラス40名に対して行う授業もあります。



平成21年7月に神戸北高等学校と協定を結んだのを始めに、現在、福知山淑徳高等学校、尼崎西高等学校、夙川学院高等学校、東灘高等学校、好文学園女子高等学校の6校が連携校となっています。

連携校以外にも依頼があれば、体験授業や施設見学を実施しており、本学から高等学校に教員を派遣して実施する場合と、学校見学を兼ねて本学で実施する場合があります。



どの分野（領域）の授業を実施するのかは高等学校からの依頼によりますが、授業内容については、基本的には各学科にお任せしています。高等学校によっては、「〇〇先生に△△の授業をお願いしたい。」と、ご指名をいただく場合もあります。その授業の感想には「今回の実習は自分自身にも役立つものでした。」や「心・技・体の講義が印象に残っています。」など、その授業・分野に興味を示してくれている内容の感想が多く見受けられ、進路を決める一助となっているのではないかと思います。



今年もすでに体験授業や施設見学の依頼をいただいている高等学校もありますので、本学の魅力をより身近に感じていただけるよう工夫を凝らしながら実施していきたいと考えています。



兵庫県と就職支援協定を締結

連携先：兵庫県

担当部署：学生支援部キャリア支援課

兵庫県から首都圏や大阪地域への若者の人口流出は増加している状況にあり、若年者の県内労働力人口の確保が課題となっています。このため兵庫県は平成29年度に「兵庫で働こうプロジェクト」に取り組むこととしており、若者の県内企業への就職の促進を図るために県内の女子大学である本学と就職支援協定を締結することとなりました。

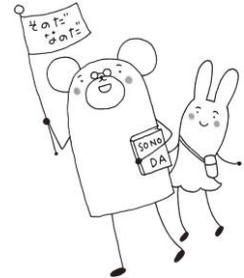
平成29年2月21日に行われた「学長と知事の懇話会」において兵庫県と園田学園女子大学との間で就職支援に関する協定が締結されました。

協定の内容は以下の通りとなっています。

県と大学が次の事項を連携、協力して実施します。

- (1) 学生やその保護者等に対する兵庫県内の企業の情報、各種イベント等の周知
- (2) 学内で行う合同企業説明会への兵庫県内企業の参加
- (3) 学生及び卒業生の就職に係る情報の交換及び実績の把握
- (4) 県が実施する大学生インターンシップ事業の実施にあたり、受入企業の周知と学生の参加促進
- (5) その他学生等の兵庫県内への就職の促進に関すること

上記の取組みを中心に、今後兵庫県との取組みを充実させていく予定です。





図書館の地域開放

担当部署：図書館

図書館は平成12年に尼崎市立図書館と連携協定を結び、それ以降、市立図書館を通して当館所蔵資料の貸出サービスを行ってきました。これに加えて、平成22年4月より尼崎市在住・在勤の18歳以上の男女、尼崎市内の高校に通学する18歳以上の女子を対象に、図書館の一般開放を開始し、翌年伊丹市・西宮市にも対象を広げました。当館には専門書も多く、登録された方々は学生に準じたサービスを受けられることもあり、毎年100名以上の地域住民に利用されています。

地域開放のさらなる充実

本学図書館は、平成22年度より近隣地域住民に対して施設開放を実施しています。利用登録された地域住民の方々は、一部の例外を除いて、資料の自由利用、館外貸出し、文献複写、希望図書の購入など学生とほぼ同様のサービスを楽しみ、全国でも稀有な地域に開かれた大学図書館となっています。この地域開放に加えて、総合生涯学習センターのシニアの方々を対象とした講座の受講生や公開講座の受講生も、学生とほぼ同様のサービスを楽しむようになっています。

時代の要請である施設のバリアフリー化については、建物構造上の制約のため、実現が困難な部分もあり、ご不便をおかけしていることは十分認識しております。このような制約の下でも、施設の改善・充実については、今後も積極的に取り組んでまいります。

大学図書館の使命である資料の収集と保存や、学生に対するサービスの充実はもちろんのこと、地域住民の方々へのサービスの充実についても、今後も鋭意努力を重ねていく所存です。





所蔵資料(含絵画資料等)の貸与他

連携先：NHK等のテレビ局、各種団体
担当部署：近松研究所

テレビ局、各種団体

例えばNHK総合(地上波)「木曜時代劇 ちかえもん」(平成28年1月14日～、全8回)では、近松門左衛門や『曾根崎心中』はもちろん、ドラマ制作に必要な資料を提供し、時にはレクチャーも実施。必要に応じて番組宣伝のための他番組にも出演しました。他にも、クイズ番組用に資料を提供したりもしています。

博多座には、台湾での営業活動のためのパンフレット作成用に所蔵資料(画像)を貸与。その他、営利・非営利を問わず、求めに応じて様々な資料を提供しています。



「大近松祭」開催への協力・支援

毎年の行事(例年10月最終日曜)に開催。平成29年は10月22日)ではありますが、「近松のまち 尼崎」最大の近松門左衛門顕彰事業である「大近松祭」への協力・支援は、研究所業務の一と位置づけ、近松記念館展示室の展示も含めて積極的に協力・支援しています。

「近松ナウ」事業への参加、協力・支援

上記「大近松祭」と同様に尼崎の近松顕彰事業の主要な活動に、「近松ナウ」事業があります。毎年10月から翌年3月までの間に、尼崎市を中心として開催される各種団体の近松顕彰事業(文楽や歌舞伎公演等を含む)の紹介を主たる活動とする「近松ナウ」事業に参加(「近松講座」)するのをはじめ、同事業の推進に関して積極的に協力した支援しています。これも上記と同じく研究所業務の一です。

その他

研究所の研究以外の活動(業務)は、連携というよりは貢献という意味合いが強く、専門家による研究成果の公開は言うまでもなく、近松顕彰につながると考えられる依頼には、可能な限り協力する用意があり、今後もその姿勢は変わりません。





三重県熊野市とのコラボ講座

連携先：三重県熊野市教育委員会
担当部署：総合生涯学習センター

熊野市が力を入れるソフトボール合宿に 27 年前から本学ソフトボール部が参加していたこと、また、スポーツ栄養学の分野で本学からの教員派遣が積極的に行われていたことから、平成 28 年に本学と本市における「コラボ（連携）」講座の開講が実現するに至りました。同市が「地域学として“熊野学”を学び、将来にわたって熊野の文化を守り育てる人材育成」を目的に開講する“熊野市民大学”への本学教員の派遣については、熊野市地域の文化おこしの要として大きな期待が寄せられています。



このコラボ講座では、先ず熊野市から専門員を招き、阪神地域に住む受講生に対し、熊野の人々が豊かな自然の中で培い伝承してきた独自の歴史と文化等を地域学とした「熊野学」を伝授します。一方、本学からも“熊野市民大学”へ講師を派遣。平成 28 年度の第 1 回は、田辺名誉教授が担当しました。「紀伊半島の温泉文化」の演題で、温泉の活用法と熊野市の地域振興を考察いたしました。この時には本学公開講座受講生も課外研修に参加し熊野市民と交流を行っています。平成 29 年度は、吉村名誉教授が担当しました。演題を「小説『悪医』が投げかけた問い-〈患者〉と〈医師〉の対立と医療制度-」とし、作品で描かれる患者と医師関係から、現代の医療制度と私たちの状況を考察するなど、同市の人材育成事業に寄与する内容です。

今後も、同市が過疎化や少子高齢化の課題から取り組む「人材育成」を筆頭に、「女性や高齢者の地域活動や産業の担い手となり活躍できる環境づくり」、「スポーツや豊かな地域資源を活かし集客交流の促進、地域経済の活性化」に対し、この「三重県熊野市とのコラボ講座」がその発展・解決へと導く企画であると確信し、引き続きこの連携事業を進めていく計画です。



オセアニア地域交流プログラム

連携先：豊岡市国際交流協会、新温泉町国際交流協会、
香美町小代地域国際交流センター、尼崎糸びす神社
担当部署：国際交流センター

プログラム期間中は、本学を中心に日本語学習、日本文化学習を行っています。3泊4日の日程で但馬地域での「雪国ホームステイ」と称したプログラムを実施。豊岡、新温泉町、小代地域でホームステイを実施し、地域の人々との交流を始め、小・中・高等学校等でも児童、生徒等とも交流を行っています。1987年から続けている雪国ホームステイは、当初よりも期間は短くなったものの、毎年受入を楽しみにしていただいています。



来日する学生の興味・関心に合わせてプログラムを作成しています。来日する学生は日本文化に強い興味をもっていますので、プログラムには学生の興味・関心の高いものを中心に取り入れています。テレビ番組でもよく紹介されるように、来日する学生が日本文化に興味をもった要因の一つに、「漫画」があります。中でも巫女姿のキャラクターに憧れもあるようなので、尼崎糸びす神社での巫女体験は非常に人気を博しています。茶道も人気のある文化体験です。一昨年から開始した箸袋・箸置き作りは、単なる折り紙ではなく、実用的でお土産にもなると好評です。

今後も変更しないプログラムとしては但馬地域での「雪国ホームステイ」があります。但馬地域の人々も毎年心待ちにして、受入をしてくださいます。来日する学生の中には初めて見る雪に大はしゃぎします。

オセアニア地域交流プログラムで来日した学生が日本をこよなく愛してくれること、本学だけでなく日本へのリピーターになってくれることを強く望んでいます。



カンタベリー大学教育比較研修

連携先：尼崎市教育委員会
担当部署：国際交流センター



毎年10月にカンタベリー大学教育学部生が来学し、尼崎市立小学校3校と園田学園幼稚園、学が丘幼稚園で日本の教育及びニュージーランドとの教育の違いについての研修を行っています。来日する同大学の学生は全員次年度現地小学校での教員として教鞭をとっています。ニュージーランドには様々な国からの園児、児童がいるため、本学で研修した内容は、現場で大いに役立っています。

来日期间中には3泊4日のホームステイをしてもらいます。ホームステイ先は大半が本学の学生宅等で実施し、双方にとって大切な異文化体験となっています。



日本語スピーチコンテスト

連携先：尼崎市国際交流協会
担当部署：国際交流センター



海外学術提携校の韓国・インチョン大学、台湾・開南大学、インドネシア・ブンハッタ大学から長期の留学生が来て、主に日本語・日本文化を学習しています。来日当初は日本語を自信なさそうに話しますが、日を追う毎に上達し、日本語で冗談も言えるようになります。

毎年2月に尼崎市国際交流協会主催で日本語のスピーチコンテストが開催され、毎年本学からも全員が参加します。スピーチコンテスト本番ではかなり緊張していますが、発表をし終わった時の顔は充実感に満ちています。お蔭で平成28年度(平成29年2月実施)のコンテストでは、本学が上位を独占しました。



尼崎市立杭瀬小学校との連携事業

連携先：杭瀬小学校区学習センター運営委員会

担当部署：児童教育学科大江研究室・人間看護学科宮田研究室・つながりプロジェクト

杭瀬小学校区学習センター運営委員会は、2007年に学校統合後の新校舎の設計に公共スペースがあることから、そこを拠点に地域の学習センターとしての機能を検討する会議です。2010年度から本学も参加し、学校、PTA、保育所、行政、社会福祉協議会等が月1回会議を開いています。尼崎市の「地域学校協働本部事業」として地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていく「地域学校協働活動」を推進することを目指しています。



本学と杭瀬小学校区との連携は、2010年度に商店街のサマーフェスティバルへの参加から始まりました。尼崎商工会議所との連携で情報誌「杭瀬なび。」の制作を行いました。その後、杭瀬熊野神社祭礼、まち歩き、杭瀬交流フェスティバルなどに参加してきました。また、児童教育学科大江ゼミの学生が調査、研究のうえ、考案した「くいせスタンプリー」は3年生の郷土学習の教材として、杭瀬小学校に寄贈しました。



2016年度は、3つのプロジェクトを受け入れていただきました。2年生の「つながりプロジェクト」では、6年生のキャリア教育として地域で働く方々と児童をつなぐ授業を学生が企画しました。児童教育学科大江ゼミの3年生は、(株)栄水化学と連携し、1年生に「お掃除の達人になろう！」という特別授業を実施しました。人間看護学科宮田ゼミの4年生は、尼崎市小田南地域包括支援センターと連携し、5、6年生を対象に「認知症サポーター養成講座」を行いました。2017年度も引き続きキャリア教育に取り組んでいます。



学社連携・融合で地域の活性化を図ろうとしている杭瀬小学校区との取り組みに寄り添いながら、これからも学生企画を進めていきたいと考えています。



学生による高齢者支援プロジェクト

担当部署：人間健康学部 人間看護学科

平成 28 年度より兵庫県阪神南県民センターの大学生による地域連携推進支援事業として、「地域で自分らしく暮らすための高齢者支援プロジェクト」を学生たちと地域の事業所や自治体の方々のご協力とご指導のもとで行っています。目的は在宅で暮らす認知症高齢者に合った支援により、本人および家族の地域生活拡大や活性化を図ること、地域高齢者の健康増進支援及び認知症予防支援をすることです。支援する中で、学生は高齢者の隠れていた力に遭遇し、人の可能性を逆に学ばせて頂いています。



在宅に住む認知症高齢者への支援

尼崎市地区連携事業所のご協力を得て、認知症を抱え在宅生活(自宅および特別養護老人ホーム・グループホーム)を維持するための支援を実施しています。



地域高齢者にむけた健康増進支援

学生が地域高齢者の健康推進のために熱中症予防・筋力向上体操・夏バテ予防レシピなどの講演を企画し、事業所や団体と連携して実施しています。



地域高齢者にむけた認知症予防支援

認知症予防に取り組んでいる講師を招き、最新の認知症予防講演会と無料認知症健診、相談会を年 1 回実施しています。待ち時間に学生たちが脳若返り運動を参加者の皆様と共に行って好評を得ています。



大岡山プロジェクト

連携先：豊岡市立清滝小学校、豊岡市立歴史博物館、香美町小代地区公民館
担当部署：児童教育学科大江研究室・人間看護学科野呂研究室

このプロジェクトは、本学が但馬地域に有する大岡山グリーンキャンパスを拠点に、豊岡市日高町、香美町小代区との連携による教育・研究活動に取り組むものです。超高齢社会の進展に伴う限界集落化の中で、高齢者が住み慣れた地域で主体的に生を全うできるよう、自助・共助・公助の機能を整理し、地域完結型高齢者の自立生活機能支援システムを住民・コミュニティ・自治体とともに提案・構築することを目指しています。



2015～16年度は兵庫県「大学連携による地域力向上事業」、2016年～19年度は「大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業」として実施しています。後者では、大岡山グリーンキャンパスに加え、香美町小代区に「香美町サテライトスタジオ」を新たに開設し、そこを拠点に教育・研究活動を行っています。



豊岡市日高町では、豊岡市立歴史博物館の協力のもと豊岡市立清滝小学校との小大連携事業をすすめています。2015年度「地域探検～「石」「水」と暮らし」、2016年度「自分たちで作った掃除道具で、掃除の楽しさを知ろう!」と生活文化の伝承を学生が児童にワークショップ形式で伝える取り組みを実施しました。



香美町小代区では、民俗芸能「寿式三番叟」や村芝居を伝承している集落「新屋」を対象に、暮らしの営みの記憶を記録。公民館「ふるさとおもしろ塾」と連携し、地域歴史遺産の継承に関する教育プログラムを企画し、学生による実践を行いました。また、高齢者からの聞き取り調査を行い、地域完結型高齢者の自立生活機能支援システムに関する研究をすすめています。この活動を通じて、自分たちが暮らす地域の資源を知り、愛着を深めるきっかけになればと思います。



園田北まちづくり協議会

連携先：園田北まちづくり協議会

担当部署：児童教育学科大江研究室・人間看護学科坂元研究室・林谷研究室・
つながりプロジェクト

園田まちづくり協議会は、2016年10月から施行されている「尼崎市自治のまちづくり条例」の制定や介護法の改正に伴う「地域包括ケアシステム」の構築と連動しながら、地域で急速に進む少子高齢化に対処し、福祉や健康課題に重点的に取り組むとともに、防災、環境、子育て、教育、歴史・文化など、その他多様な地域課題に対処できる協働のネットワーク組織です。本学も協議会の一員となり、2010年度から継続している猪名寺自治会との連携も新たな段階を迎えています。



本学と猪名寺自治会との連携は、2010年度の盆踊りのボランティアから始まりました。その後、まち歩き、新春餅つき大会、地区清掃、万葉の森・佐璞丘再生プロジェクトなどに参加してきました。



2016年度は、地域志向科目「つながりプロジェクト」で3つのプロジェクトを受け入れていただきました。「地域資源を活用した安心・安全まちづくり」（担当：大江教授）「運動を活用した健康に暮らせる街づくり」（担当：林谷講師）「笑い」による健康増進プログラムの開発」（担当：宮島講師）です。県立尼崎稲園高校、市立園田中学校、市立園田北小学校の児童・生徒が地域住民と協働した防災教育プログラム、高齢者を対象とした運動プログラムや笑育など、いずれも本学学生が企画した取り組みです。



2017年度は、猪名寺忍者学校（児童教育学科大江ゼミ）、認知症地域支援プロジェクト（人間看護学科坂元研究室）、つながりプロジェクト（笑育、PAPER PLANE 運動プロジェクト）に取り組んでいます。

今後は、小学校区を単位としたネットワークのなかで、だれもが安心して暮らせる地域をつくることができるよう、大学の専門知を活かしたいと思っています。



尼崎市との連携協定

連携先：尼崎市

担当部署：地域連携推進機構

平成 26 年、尼崎市の稲村市長と本学の富永先生（当時学長）との間に包括提携の協定書が取り交わされました。その後も教育、健康づくり、国際交流、社会教育（生涯学習）など多分野にわたる連携が続いています。平成 28 年には「生活習慣病対策事業記念フォーラム」、「尼崎フューチャーゲーム」、「みんなの尼崎大学はじまるの会」、平成 29 年 8 月には「みんなのサマーセミナー」などに協力しました。



平成 28 年に尼崎市は市制 100 周年を迎えました。そして新たに自治のまちづくりを進める観点から、まち全体が学習する地域をめざす事業を展開しています。

5 月 8 日「未来いまカラダシンポジウム」では、本学人間健康学部食物栄養学科の先生方が、市内に住む方々に食生活意識を向上していただくため食育 SAT システムを用いた栄養指導ブースを開設しました。

8 月 6 日・7 日開催の「みんなのサマーセミナー」では「つながりプロジェクト」受講生をはじめ本学の学生や教職員が参加し、それぞれ専門性を活かした授業を開講しました。「みんなのサマーセミナー」は今年も行われ、たくさんの学生、教職員が参加しました（平成 29 年 8 月 5 日・6 日）。



平成 28 年 10 月 8 日開催の市民まつりの日には、カードゲームを通して尼崎の未来を考える「尼崎フューチャーゲーム」のイベントが行われました。これは尼崎市のリソース（資源）を描いたカードを使って尼崎の課題解決を話し合うゲームで、小学生から高齢者までたくさんの方々がにぎやかに話し合うことができました。当日の様子は YouTube でもご覧いただけます。



11 月 26 日、27 日には「学び」をテーマとしたまちづくりのプロジェクト「みんなの尼崎大学」のオープニングイベントを共催しました。



経験値教育・大学の社会貢献

連携先：尼崎市、特定非営利活動法人やんちゃんこ
担当部署：地域連携推進機構 副機構長 大江篤

本学では、地域での学びを通して、座学で学んだ理論的なことを実践と結び付け自ら学びを発展させていくことができる人材の育成を目指す「経験値教育」を実施しています。その導入として学生に大学で学ぶ意義と責任、地域社会における大学の役割などを自覚させることを目的として大学基幹科目として大学の社会貢献を開講しています。この授業で地域と初めて関わることになる学生も多く、学生に地域と自らの学びについて考える良いきっかけになっていると考えます。

授業の概要

大学の社会貢献では、大学が立地する尼崎市の特性と課題を学び、地域の課題を解決する方策をフィールドワークなどの実践をふまえて市に提案する授業を実施しています。授業では、尼崎市役所や地域の方を招いて地域課題についての講義を受けた上で、学生自身の目で地域の実態をとらえるためにフィールドワークを実施しています。そして、講義とフィールドワークをふまえて、学生がグループ毎に地域課題を解決するための具体策を企画し、市役所や地域の方を審査員にお招きして学内コンペを行っています。

これまでの取り組み

これまでさんさんタウン活性化企画や公園を中心にした子どもたちが主体となる地域活性化イベントの企画、NPO 法人やんちゃんこの運営するまちの寺子屋での学生企画による子育て支援イベントを実施するなどしてきました。学生の立案した地域課題解決策のうち、学内コンペで最優秀賞を受賞したグループの取り組みは、尼崎市が年度末に開催する政策提言発表会にて発表を行い、尼崎市長の講評を受けています。今後も地域を志向した経験値を高める授業を進めていく予定です。





「尼いも」と園田学園女子大学

連携先：尼崎商工会議所、尼いもクラブ

担当部署：地域連携推進機構

尼崎の特産品「尼いも」は、水害で栽培が途絶え、絶滅しました。

2003年に市民団体「尼いもクラブ」によって復活してから、農家や市民ボランティアの手により焼酎や茎のつくだ煮など市内に浸透していきました。

本学でも尼いもに注目し、尼芋奉納祭の巫女姿での司会やブース出展を行ったり、尼いもを使った麴を作る研究が行われたり、つなGirlが尼いも応援団としてゆるキャラ「尼のいも子」を地域の方と作るなど、様々な連携を行っています。

授業で連携

地域志向科目「つながりプロジェクト」では「尼いもクラブ」の網本武雄氏を非常勤講師としてお迎えしています。網本先生の授業で学生は「尼いも」を通じて地域を知り、地域の人とかかわる機会を増やしています。尼芋奉納祭（於：尼崎貴布禰神社）では、巫女姿での司会やブース出展を行い地域の方々にも好評を得ています。



研究で連携

「尼いも」を使って麴を作る研究を、本学食物栄養学科渡辺敏郎教授のゼミ活動で行っています。平成28年度では貴布禰神社で採取した菌「KIFUNE72」と尼いもで「尼いもの甘酒」作りに挑戦しました。完成には至りませんでしたが、今後も研究を続けていきます。



学生地域連携推進委員会（通称：つなGirl）で連携

つなGirlは、初代の委員長が尼崎市農政課を通じて尼いもの取材を行ったことをきっかけに「尼いも応援団」と称して、つなGirl結成の年より尼芋奉納祭でのお手伝いやブース出展を続けています。尼芋奉納祭の来場者にイラストや名前を募集して、2年がかりでゆるキャラ「尼のいも子」が完成しました。





宇宙飛行士、尼崎に降り立つ

連携先：尼崎市立衛生研究所
担当部署：地域連携推進機構

これは尼崎市立衛生研究所が開所50周年を記念した「未来の科学者夢体験研究所事業」で、共同研究等で連携してきた本学は共催（会場）として、2016年5月21日（土）に実施しました。尼崎市市制100周年記念事業「星出彰彦 JAXA 宇宙飛行士講演会『尼崎に宇宙飛行士がやってくる！』」が開催されました。市内在住、在学の親子450名にご参加いただき、本学からは総合健康学科の学生11名がボランティアで会場への誘導などを担当しました。

未来の科学者夢体験研究所

未来の科学者を夢見る子どもたちに、ワクワク・ドキドキする科学講座を開くこととなって、宇宙科学について実際に宇宙空間に行かれた宇宙飛行士である星出彰彦さんのお話を聞かせていただきました。

子どもたちの好奇心や創造力をかきたてる！

星出さんは映像を使って宇宙飛行士や宇宙ステーションなどの説明をされた後、参加した子どもたちからの質問に答えてくださいました。質問した子の目の前まで行き、ひとつひとつ楽しく丁寧に回答されていました。無重力の話や宇宙ステーションの窓から見える地球の話、宇宙での実験の話などの回答に、質問していない子どもたちも質問者に向き合ってお話される星出さんの様子が夢中になり真剣に聞き入っていました。

未来を担う子どもたちが抱く夢

- 「自分の夢の実現に頑張ろうと思った」
- 「大変そうだけど宇宙飛行士になりたい」
- 「星出さんに出会えてよかった」
- 「こんな大人になりたい」

星出さんの誠実さに触れた子どもたちに、大きな夢を抱いてもらえたと思います。





まちづくり解剖学

担当部署：地域連携推進機構

「まちづくり解剖学」は、本学が主催し、地域社会、大学、行政それぞれの抱える課題を共有するための研究会として2013年から発足しました。2016年は5回の定例開催のほか、番外編として2018年築城予定の尼崎城の活用を考えるワークショップ、特別編として災害伝承から防災・減災を考える会を開催しました。毎回学生や大学教職員、地域の方々など10名～40名程度の参加があり、地域の知の核としての大学に期待する声があがりました。



2016年度の「まちづくり解剖学」は、次のようなテーマで開催されました。5月26日(木)「住みたい街、訪れたい街「猪名寺」のまちづくり」7月14日(木)「みんなのサマーセミナーにむけて」8月4日(木)「留学生との交流を通じて異文化理解を深める」11月10日(木)「「尼いも」と園田学園女子大学」1月12日(木)「若者の自殺予防～私たちにできること～」2月25日(土)「尼崎城活用ワークショップ」3月10日(金)「防災・減災～市民として何ができるか、何をしなければならないか」

2017年度も定例開催5回を予定しています。5月25日(木)には「つなげよう尼崎と学生の輪～あまがさを私たちのホームへ～」を開催、7月20日(木)には「わがまちまちづくり～ここが工夫のしどころ～」を、9月28日(木)は「小学校区学習センターのまちづくり」11月16日(木)では「インターンシップのあれこれ」。翌年1月11日(木)は「地域社会から見た本学のCBL」を予定しています。3月8日(木)には、例年の通り防災・減災のテーマで「災害時の非常食」を取り上げます。



まちの相談室

連携先：各自治体、地域団体等

担当部署：学生地域連携推進委員会（つな Girl）、地域連携推進機構

まちの相談室の運営

学生地域連携推進委員会（通称：つな Girl）と、地域連携推進機構（事務局）で運営しています。自治体や地域の各団体から学生へ、イベントやボランティア募集等の情報を頂戴し、授業やクラブ等へ情報提供を行っています。学生が地域の方から直接、お話をお伺いすることができる貴重な機会となっています。

まちの相談室の記録

過去3年間の相談件数は、平成27年度80件、平成28年度56件、平成29年度24件（2017年8月22日現在）で、相談件数は減っていますが、継続しての活動も増えており学生の地域活動の場は広がっています。



防災・減災を

連携先：社会福祉協議会、連絡協議会、尼崎市危機安全管理局

担当部署：地域連携推進機構

1月17日に起こった阪神淡路大震災、3月11日の東日本大震災などを踏まえて、今後起こるであろう南海大地震に向けて「対処できること、大学として何ができるか、何をしなければならないか」を毎年3月にまちづくり解剖学特別編として実施しています。

平成27年度には、社会福祉協議会、連絡協議会のご協力を得て地域の防災、減災意識を、身近なものとして考え、今後の大学の防災・減災の在り方を考える機会を持っています。学内での避難訓練が定着してきており、平成28年度には人間看護学科の野呂教授がお持ちの防災グッズ、避難所グッズの展示、クロスロードゲームから万が一何が必要か、そして災害時にはいろいろな意見があることを理解するセッションを行いました。

平成29年度 地域志向教育研究

地域連携活動の歴史をふまえ、尼崎市や尼崎商工会議所、尼崎市社会福祉協議会と連携し、10のプロジェクトが立ち上がりました。健康・教育・生活にかかわる基礎的研究を力に、社会が求める独自の応用的、実践的な研究に努め、今後も地域課題の解決に向けて取り組んでいます。

テーマ	研究代表	分野
2020年度に向けた1人一台のタブレット端末導入の尼崎市モデル小学校・中学校・高校版の作成	人間健康学部 教授 堀田博史	学校教育
地域に向けた手洗い指導の拠点の構築 ～継続した取り組み～	人間健康学部 人間看護学科 教授 山本恭子	健康づくり
地域資源を活用したまちづくりモデル構築のための基礎的研究	人間教育学部 児童教育学科 教授 大江篤	生涯学習
災害伝承を活用した地域防災教育プログラム構築に関する研究	人間健康学部 人間看護学科 教授 野呂千鶴子	学校教育 / 生涯学習
健康意識の高い町・尼崎の土台づくりと食育の定着について	人間健康学部 食物栄養学科 教授 餅美知子	健康づくり
庄下川の河川環境を利用した児童生徒の為の環境学習プログラムの構築	人間健康学部 総合健康学科 教授 衣笠治子	学校教育
尼崎市に住む高齢者のための運動交流プロジェクト実践と普及 一人つむぎ尼つむぎー	人間健康学部 人間看護学科 講師 林谷啓美	健康づくり
学生を主体とした、地域学校への情報教育 応援活動	人間健康学部 准教授 難波 宏司	学校教育
「生活」をテーマに、地域に根差した生涯学習プログラムの開発 生活の知恵再発見（食生活、衣生活編）	人間健康学部 食物栄養学科 教授 深津智恵美	生涯学習
尼っ子のスポーツ振興プロジェクト	人間健康学部 総合健康学科 助教 木田京子	子ども・ 子育て支援



庄下川の河川環境を利用した児童生徒のための親水プログラム



尼っ子のスポーツ振興プロジェクト



災害伝承を活用した地域防災教育プログラム構築に関する研究



尼崎市に住む高齢者のための運動交流プロジェクト開発と実践



中学校向けタブレット端末活用リーフレットの作成

【店舗側からの実践活動の紹介】
 3. 不足しがちな栄養素についてのメニューの改善を行った。

鉄分の宝庫 立夜庫

新メニューの開発
 鶏肉・鉄分補給のレバー、ビタミン補給と食感を高める彩りのパプリカ、スナゴロのコンニャクの芽など女子大生でも食べられるメニューが出来上がりつつあります。

↓

学生も店舗で試食したいです！

健康意識の高い町・尼崎の土台づくりと食育の定着について

平成29年度 つながりプロジェクト

平成28年度から2年次生全員の必修科目として「つながりプロジェクト」が開講されました。尼崎市の地域課題に即したテーマについて、尼崎市や尼崎商工会議所、尼崎市社会福祉協議会などとともに取り組み、課題解決に向けて企画、提言をおこなうプロジェクト型の演習科目です。学部学科を横断することにより、複眼的、多面的に課題に向き合う力を養成しています。



つながりプロジェクトガイダンスの様子

平成29年度 つながりプロジェクト授業一覧

No.	タイトル	担当教員
01	幼稚園・小学校・高等学校での効果的なタブレット活用を考えよう！	人間健康学部 教授 堀田博史
02	地域における感染対策のための「手洗い講習会」	人間看護学科 教授 山本恭子
03	地域子育て支援	児童教育学科 教授 大江篤
04	庄下川環境を利用した地域住民の親水性の向上	総合健康学科 教授 衣笠治子
05	地域に住む高齢者との運動交流プログラム ～人つむぎ尼つむぎ～	人間看護学科 講師 林谷啓美
06	地域日本語教育への提言 ーボランティア育成の実践と課題ー	人間健康学部 准教授 吉永尚
07	小学校でのプログラミング教育	人間健康学部 准教授 難波宏司
08	子どものための郷土学習教材をつくる	総合健康学科 教授 山本起世子
09	地域の学びプロデュース演習	株式会社地域環境計画研究所 若狭健作
10	まちづくり企画実践演習	尼崎南部再生研究室 綱本武雄
11	男女共同参画の視点をもった防災・防犯を考える	NPO法人男女協同参画ネット尼崎 岩田さやか



09. 地域の学びプロデュース演習



11. 男女共同参画の視点をもった
防災・防犯を考える



06. 地域日本語教育への提言
ーボランティア育成の実践と課題ー

No.	タイトル	担当教員
12	おもしろき こともなき世を おもしろく	NPO法人あまがさき環境オープンカレッジ 大原一憲
13	尼崎の森中央緑地で生き物の つながりを楽しむ環境学習を作ろう	尼崎の森中央緑地環境学習森づくりコーディネーター 石丸京子
14	図書館探検隊 図書館革命	同志社大学嘱託講師 久留島元
15	地域の歴史を知り、地域への誇りや愛着を育む	あまがさき市民まちづくり研究会 正岡茂明
16	「笑育」で21世紀型スキルを磨く	松竹芸能株式会社 宮島友香
17	地元企業連携による 休眠知財活用アイデアの創出	国文学研究資料館 上相英之
18	あまっこキャリア教育プログラムの開発	NPO法人 JAE 塩見優子
19	防災 Re: デザイン ー若者が参加したくなるような防災を考えようー	龍谷大学政策学部 石原凌河
20	みんなでつくる展覧会	イラストレーター/絵本作家 松野和貴
21	尼崎の歴史・文化を世界に発信する	日本学術振興会特別研究員 (PD) / 東京大学 雪村加世子



20. みんなでつくる展覧会



17. 地元企業連携による
休眠知財活用アイデアの創出



14. 図書館探検隊 図書館革命



19. 防災 Re : デザイン
一若者が参加したくなるような防災を考えようー



04. 庄下川環境を利用した
地域住民の親水性の向上



07. 幼稚園・小学校・高等学校での
効果的なタブレット活用を考えよう！



02. 地域における感染対策のための
「手洗い講習会」



学園祭『けやき祭』

連携先：近隣企業、事業所、産業技術短期大学等
担当部署：学生支援部 学生課



けやき祭は毎年2,000名以上の来場者・出展（店）者でにぎわい、数多くの近隣企業・事業所から協賛をいただき運営をしています。また、兵庫県赤十字血液センターと本学インターアクトクラブの連携での「献血活動」や地元団体と学生地域連携推進委員会（つな Girl）と連携の「キッズフェスティバル」など、けやき祭は外部の団体と本学学生団体とを結びつける場としても機能しています。市内にある産業技術短期大学とは毎年、相互に学園祭へ出店をするなど交流を深めています。

平成29年は10月21・22日の土日に、第54回けやき祭を開催します。テーマは「Happiness」。来場者・出展（店）者が幸せになれる学園祭を目指します。



学生地域連携推進委員会（通称：つな Girl）

連携先：尼崎市、尼崎青年会議所、尼もクラブ、自治体等多数
担当部署：地域連携推進機構



コンセプト「つながって、まきこんで、楽しんで、笑顔がうまれて、またつながって」

地域の方と学内の学生をつなぐ架け橋を担い、まちの相談室を開室、地域の方からのボランティア等を学生に周知したり、イベントの企画をしたりしています。

地域の方と園田の学生とのつながりを深めてほしい

平成29年度は「つなげよう尼崎と学生の輪～あまがさきを私たちのホームへ～」を目標とし、今後は学生に尼崎をもっと身近に感じてもらえるよう、SNS等を活用して、地域活動することの楽しさを伝えます。

これからも『つな Girl』は、明るく、楽しく、目標に向かって活動していきます。



テニス部が行っている地域連携活動

連携先：尼崎市テニス協会、園田学園テニス部OG会、
公益財団法人 尼崎市スポーツ振興事業団、全但バス 但馬ドーム
担当部署：テニス部



テニス部が行っている地域連携活動は、スポーツのまち尼崎フェスティバルジュニア教室(尼崎市記念公園コート・10月)、園田学園クリニック(本学コート・11月&3月)、但馬ドームクリニック(全但バス但馬ドーム・1月)です。5歳~80歳という幅広い年齢の参加者に対するクリニックの企画、運営、指導、指導補助という役割を部員が担い、先輩方とともに開催しています。

これまで、テニスの楽しさを伝えることが大きなテーマでしたが、今後は、学生達のリーダーシップを育む場として、スポーツを支えるボランティア活動に積極的に取り組み、2020年の東京五輪を通じて、より能動的にスポーツに関わることを目標としています。



ソフトボールクリニック (但馬)

連携先：県立但馬ドーム
担当部署：ソフトボール部・スポーツ振興センター



兵庫県豊岡市にある県立但馬ドームと共同で「ソフトボールクリニック」を毎年2月に継続して15年間開催しています。毎年定員オーバーする定着した人気を集めています。但馬地区は豪雪地区の為、屋外スポーツが行われにくい現状で少しでもスポーツに親んでもらうことを目的としています。2日間に渡り3部構成で行っています。幼児や小学生をはじめ中学校・高等学校のクラブ活動の生徒も参加します。また長年行ってきた一般対象クラスを昨年度より、キッズ対象の「ボールで遊ぼう」に変更し、幼少期のスポーツとの出会いを大切に開始しました。講習は、学生主導で立案・実行・評価を行いスポーツの楽しさを伝えます。



神戸マラソン 大会ボランティア

連携先：兵庫県、神戸市
担当部署：陸上競技部



神戸マラソンは兵庫県、神戸市が主催し全国・海外から2万人が参加する県内最大のマラソン大会です。陸上競技部の学生約30人が、選手受付・走路員・給水係としてランナーを支援しました。

日頃部員は、競技に参加する時は、競技運営されている方々の支援を受けて競技会に参加していますが、この日は逆で、ランナーのサポート役として活動しました。

大忙しの1日でしたが、一生懸命走るランナーの姿を目の当たりにして、自分たちも「頑張ろう」と思った学生もたくさんいました。

2016年11月20日(日)



チアリーディング部の地域での活動

担当部署：チアリーディング部



平成18年、「活気あふれるチアリーディング・パフォーマンスで観客を魅了する」を活動目標に創部。チアリーディングの競技力を高め、また社会人アメリカンフットボールチームの専属チアをつとめながらも「人を明るい気持ちにし、勇気づけ、元気づける」チアリーディングの精神で多くの人に、笑顔、勇気、元気を届けるように活動してきました。そして、産業技術短期大学の体育祭・学祭、神戸まつり、新開地夏まつり2017などに出演し、Vチャレンジリーグ男子バレーボールチーム兵庫デルフィーノの応援に行ってきました。今後も、多くの方を元気に、そして笑顔にできるよう、地元尼崎を中心に活動していきます。



女子野球の聖地・富山県魚津へ!!

連携先：全日本大学女子野球選手権大会魚津市実行委員会、全日本大学女子野球連盟
担当部署：軟式野球部



平成 29 年も第 31 回全日本大会に出場します。この大会富山県魚津市の方々が全面的にバックアップして下さり、選手と市民が共に盛り上がる大会です。

球場の外では、農家の方々が採れたての果物や野菜を振る舞って下さり、勝負だけではなく人の温かさや優しさを体感できる素敵な大会となっています。

平成 29 年の初戦は、4 年次生が 1 年次生の時にベスト 4 をかけて勝利した東京女子体育大学です。あれから 3 年、再度の対戦です。

かなり強敵ですが、孫子の「彼れを知りて己を知れば百戦してあやうからず」（孫子の兵法）の精神で戦いたいと思います。



サークル「アオラキ」

担当部署：サークル「アオラキ」



サークル「アオラキ」は、夏はウインドサーフィン、冬はスキー、スノーボードといった具合に、季節に応じてシーズンスポーツを気軽に楽しもうという趣旨で 2011 年に本学有志の学生が設立した、大学公認のサークルです。普段はシーズンスポーツを楽しむ活動をメンバーが行い、また本学の地域連携推進機構や関連団体の求めに応じ、随時学生ボランティア活動に参加しています。平成 28 年度は、「2016 スポーツのまち尼崎フェスティバル」の運営補助活動に協力しています。平成 29 年度も同様の活動を継続していきたいと考えています。



インターアクトクラブの献血推進活動

連携先：尼崎北ロータリークラブ・塚口さんさんタウン献血ルーム
担当部署：学生支援部 学生課

兵庫県赤十字血液センターとの連携

本学インターアクトクラブは、毎年剣道部の1年生が所属し、尼崎北ロータリークラブの支援を受け、社会奉仕と国際理解を目的に活動を行っています。主な活動としては、兵庫県赤十字血液センター「塚口さんさんタウン献血ルーム」のスタッフと共に行う献血推進活動です。大学内での献血PRを中心に、毎年10月の学園祭に献血車を招き、近年では100名を超える大勢の方々に協力いただいております。また、献血ルームへの学園関係者による受付者数も年間100名を超えるまでになっており、そういった長年の献血活動が認められ、平成29年度8月に兵庫県献血功労団体として表彰されました。



「王将戦前夜祭」参加

連携先：尼崎市技能職団体連絡協議会、尼崎市市制100周年記念「王将戦」実行委員会
担当部署：茶華道部

本学「茶華道部」は、少人数での活動を続けています。本学が「経験値教育」を掲げ推進する中で、「大学COC事業」に指定され、地域と連携を深めており、茶華道部にも各方面から出演依頼が来ています。中でも尼崎市技能職団体連絡協議会や尼崎市市制100周年記念「王将戦」実行委員会からの依頼での活動は新鮮な体験でした。

平成28年度は「武庫支所オープニングセレモニー」や「コスモスフェア」にもお茶席を設けました。今後も地域の各団体と連携し、新しいイベントにも積極的に参加していこうと考えています。

学生として、茶道に親しみ、茶道を追究し、その素晴らしさを多くの人々に伝え、様々な地域活動を通して、学生自身も成長していければよいと考えます。





養護実践研究会「スマイルズ」の活動

連携先：大学周辺の地域住民、尼崎市立地域総合センター神崎
担当部署：人間健康学部 総合健康学科



「スマイルズ」は総合健康学科養護コースの学生が、地域の学校・団体と連携し、養護教諭の専門性を生かした（健康教育の）指導方法・技術を磨くと共に、ボランティア活動で地域に貢献することを目的に活動しています。平成28年度は、学園祭で「インフルエンザを知ろう」という保健指導を企画しました。また、地域に向き、クリスマス会のイベントの前に保健指導を実践したり、中学生と一緒に「こなもんクッキング」をしたり、子どもたちと楽しい時間を過ごしながら、健康について考えてもらうようにしています。平成29年度も地域での活動や学園祭を通して、地域住民、特に子どもたちの健康づくりのお手伝いをします！！



シグマソサエティクラブ わらべうた研究会

連携先：国際ソロプチミスト尼崎、尼崎市こども青少年局児童課
担当部署：人間教育学部 児童教育学科



「わらべうた」は昔のものと思われがちですが、大人から子どもへ、子どもから子どもへと受け継がれており、言葉の心地よいリズムと温かさが子どもたちを楽しませてくれます。このようなわらべうたを学び、子どもたちに伝えていきたいという思いで、現在6名の学生が活動しています。学内では週1回集まり、学生がそれぞれ調べたわらべうたを発表しています。学外では毎年夏休みに、市内の4、5か所の児童クラブにおいてわらべうたの実践や、障がい者支援施設へ赴き、利用者の方とわらべうたを楽しむ活動もしています。10月に開催される学園祭では親子でわらべうたを楽しめるコーナー設け、毎年たくさんの親子に喜んでいただけてます。



近松人形劇部

連携先：近松会館、猪名寺自治会
担当部署：近松人形劇部



近松人形劇部は2014年に創部した新しいクラブ活動です。1989年に結成され、人形劇などを通して近松門左衛門を応援していた近松応援団が、高齢化とともに、解散することになっていました。そのことを「まちづくり解剖学」で聞いた学生4名が、人形劇を引き継ぐことを決意し、応援団の方々の手作りの人形を譲り受け、指導を受けながら活動をはじめました。これまでの活動は、兵庫女性未来会議、大近松祭（近松記念館）、みんなのサマーセミナー、石見神楽祭（猪名寺自治会）、コープこうべ塚口店等各所で演じてきました。これからは、子どもたちに近松作品を伝えるため、パーサートや紙芝居の製作に取り組んでいきます。



七夕まつり

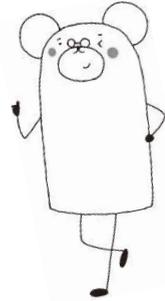
担当部署：園田学園女子大学生協同組合

地域の方との交流企画

園田学園女子大学生協同組合の創業祭「七夕まつり」を生協学生委員会が中心となって、今年も平成29年7月7日に行いました。例年、本学学生の参加者が多くはありませんでしたが、今年は本学学生会の協力で従来以上の参加がありました。また大学周辺の幼稚園・保育園・小学校にもチラシを配布し、合わせて300名以上のご来場をいただき、大盛況となりました。本学学生・小学生以下の浴衣来場者には模擬店で使用できる金券のプレゼントなども行い、七夕まつりらしい風景となりました。来年以降も引続き、地域の方々との交流を兼ねた企画として実施してゆきます。



このページでは、各学科や課外活動で地域との連携事業・地域志向教育研究やボランティアなどに参加した学生の声をお届けします。地域で学んだ経験値教育の成果を語ってくれています。



高平 梨央 4年次生
(総合健康学科)
明石市立明石商業高等学校出身

神戸市学生スクールサポーターの学生ボランティアに参加しました。教職を目指しているので、実際に学校現場に行き学校や生徒の様子、先生方の授業を見て学び、今後に活かしたいと思い、応募しました。活動に参加して、支援が必要な中学生が多いことに気づきました。全体の指示が理解できない生徒、グループワークで意見を言う勇気がない生徒には、教師側からの声かけが必要です。授業を進める先生が見えない所で生徒が困っていることもあり、スクールサポーターとしてできる支援をしました。今回参加した取り組みをふまえ、人とのかかわりから得るものは多いと感じたので、学校に限らず、これからも地域との交流を積極的に行っていきたいです。



左：**武中 美里 4年次生**
(人間看護学科)
園田学園高等学校出身

右：**中島 千賀子 4年次生**
(人間看護学科)
武庫川女子大学附属高等学校出身

尼崎市における地域活動の実際を知りたいと考えていたところ、学科案内でボランティアの募集があったため参加しました。

地べたフェスを開催するにあたり主催者の方々との協力し、参加者が安全に楽しめるように環境を整えることが大切であると学びました。地べたフェスは地域の活性化を目的に行われていました。積極的に地域の方々とのコミュニケーションをとることで地域住民がお互いを知る場になっており、つながりを持てるよい機会になっていると感じました。

地域に住む人々が生活を送るうえで地域にどのようなことを求めているのか常に考えながら今後の大学生活を送りたいです。



魚谷 綾香 4年次生
(食物栄養学科)
兵庫県立播磨南高等学校出身

そのだスポーツ栄養ナビステーションでは、骨密度や体組成(水分、筋肉、脂肪、骨の量等)、アストリム(貧血指標)等を測定し、運動部の選手や、オープンキャンパスに来られた方、地域の方々に健康についてアドバイスをしています。この他に本学バスケットボール部やテニス部の測定にあわせ食事調査を実施し、食から作られる身体づくりについてアドバイスしました。

活動を通して、競技による身体づくりの違いや、アドバイスを伝え、食の意識を変えてもらう難しさを学びました。わからないことは、餅先生やゼミ生、スポーツ栄養サポートサークルのメンバーで話し合い、改善しています。まだ知名度が低く利用者は少ないですが、協力して頑張っていきたいと思います。

(p9、「そのだスポーツ栄養ナビステーション」参照)



筑紫 美葉 3年次生
(児童教育学科)
兵庫県立尼崎高等学校出身

ママカフェでは保護者と接するという経験が初めてで緊張しましたが、子どもを育てる母親の気持ちを聞けたり、母親と子どもや親同士で関わる様子を見たりすることができ、少しは子育てをする母親への理解が深まったように感じます。将来保育現場で勤務することになった場合、この経験を活かし、母親の気持ちに寄り添うことのできる保育者になりたいと思いました。このような活動があることを知りませんでしたし、今回の取り組みに地域の様々な方たちが協力して親子が楽しめるような催しを考えておられることに感動しました。今後、校外での活動に積極的に参加して色々な経験をし、より色々なことを感じたいと思いました。

(p10、「ママカフェ」参照)



榎田 智咲 2年次生
(生活文化学科)
徳島県立徳島商業高等学校出身

尼崎商工会議所実行委員会主催「スイーツの街・あまがさき」事業で学生ボランティアとして参加しました。

小学生を対象としたケーキ教室の補助では、講師をされたパティシエの方から「子供達への気配りができていて、こちらが助けられた」というお褒めの言葉を頂きました。また、トークショーでは、提供されるデザートへの盛り付け作業に参加しました。繊細なチョコレート細工を盛り付ける作業では手の震えが止まらず、普段の実習では味わえない貴重な体験をさせて頂きました。

今回のイベントは地域協力の場でもあり、パティシエの方達との交流の場でもありました。今回の経験を生かし、残りの学生生活を充実したものとしていきたいです。

(p12、「Super Sweets in Amagasaki」参照)



若山 美樹 2017年卒業生
(幼児教育学科)
園田学園高等学校出身

私は2年の時、大学で学んだ知識だけでなく、実際の親子関係を見て学び、リトミックなどを通して地域の就園前の子どもたち楽しんでいただける支援がしたいと思い、子育て支援ができるゼミを選択しました。

ゼミでは、2016年11月に尼崎市立地域総合センター上ノ島分館にて「お姉ちゃん先生と遊ぼう」という子育て支援を行いました。年齢や親子での参加など、子どもたちに喜んでもらうための工夫を色々な角度から考えました。当日は親子の笑顔や子どもたちの輝いた目を見ることで達成感を得ることができました。

平成29年4月から保育所に勤務しています。在学中の学びを基に、今後も保護者との信頼関係を大切にし、子どもの保育だけでなく保護者のサポートも頑張っていきたいです。

(p15、「お姉ちゃん先生と遊ぼう！」参照)



木村 優布子 4年次生
(テニス部 総合健康学科)
星稜高等学校出身

私は、スポーツのまち尼崎フェスティバルジュニアテニス教室に1年生の時から参加しています。小学1年生から中学1年生までの50名にテニスの指導を行います。ほとんどの参加者が初めてラケットを握るため、通常使用しているテニス用語が全く通じずオロオロしました。子供達に理解できる簡単なツインパクトのある言葉を準備しておかなければ、テニスの楽しさを伝えられないと痛感しました。教室で初めてのことに挑戦し、落ち込みながら粘り強く取り組み、達成感を一緒に味わえたことは、すごく刺激的で大きな充実感を得る機会となりました。

今後も様々な活動を通じて、目標に向かってお互いを高め合える仲間との時間を大切にしていきたいです。

(p41、「テニス部が行っている地域連携活動」参照)



藤田 瑞貴 4年次生
(チアリーディング部 食物栄養学科)
兵庫県立鳴尾高等学校出身

多くの方に演技を通して笑顔になってもらいチアリーディングを見る機会がない地域の方々にもチアリーディングの魅力を伝えるために、けやき祭と七夕まつりに参加しました。

チーム全体で目標を立て大きな技に挑戦したり、ダンスなどの技術を磨きました。毎日の練習を通して、目標を達成するために努力することが大切だと学びました。本番の演技では見に来て下さったお客さんに元気や笑顔を届け、自分達も演技を楽しみました。チアリーディングという競技を多くの方に知っていただくことができたと感じています。

チアリーディングで学んだ協調性や人とのコミュニケーションの大切さを生かして多くの方と関わり人として成長していきたいです。

(p40、「学園祭『けやき祭』」・p46「七夕まつり」参照)



落合 空 2年次生
(インターアクトクラブ 児童教育学科)
京都府立久御山高等学校出身

献血推進活動にはインターアクトクラブでのボランティア活動の一環として参加しました。

全国には輸血が必要な人は多く、また常に血液が必要であるということに気づきました。そしてその為に、何度も、宣伝ティッシュ配りなどの呼び掛けを行うことで、初めて必要な人に血液を届けることができるのだと感じました。この献血のボランティアを通して得た経験をもとに、何か少しでも人の為に出来ることのないかを考え、行動していけるようにしていきたいです。

(p44、「インターアクトクラブの献血推進活動」参照)



加地 優花 3年次生
(茶華道部 児童教育学科)
城南学園高等学校出身

茶華道部に対して、お茶席の依頼が学生課や顧問の先生にありましたので参加させていただきました。

王将戦前夜祭は畳ではないので立礼のお点前を部員全員でお稽古していきました。少ない人数でいかに効率よく回せるかは今後の課題です。技能フェスティバルでは茶道を知らない方に抹茶の立て方を伝えることが難しく、わかりやすく伝えること学びました。

園田学園高等学校や立花中学校と一緒にやるお茶席は初めてでしたが、参加者との交流で自分たちがお手本を示せたことは良い経験となりました。このほか、武庫支所のオープニングセミナーやコスモスフェアにも参加しました。これからも自分を高められるような大学生活を送りたいです。

(p44、「『王将戦前夜祭』参加」参照)



石黒 美羽 3年次生
(わらべうた研究会 児童教育学科)
大阪府立柴島高等学校出身

憧れていた先輩にサークルの見学において声をかけて頂いたこと、活動内容が今後自分の成長に繋がると思ったことがきっかけで、わらべうた研究会に入りました。

わらべうたを学んでいくうちに、わらべうたは普通の手遊びとは違い、曲の長さはとても短く音の数も少ないので覚えやすいのだと感じました。夏休みには児童クラブなどにわらべうたを教えに行きますが、その時も子どもたちは私たちの歌を聞き覚えて遊ぶので、こうしてわらべうたは受け継がれているのかなと思います。

就職したときに子どもたちにわらべうたを伝えていきたいので、残りの大学生活でもっとわらべうたを覚えられるように頑張ります。

(p45、「シグマソサエティクラブ わらべうた研究会」参照)



本田 佳寿美 3年次生
(近松人形劇部 児童教育学科)
神戸星城高等学校出身

「つながりプロジェクト」の授業をきっかけに、近松人形劇部と石見神楽祭というイベントを知り、園田学園にしかないこの部活のために何かしたいと思い、参加しました。人形に初めて触れ、演じたときは演技の難しさに悩むことも多かったのですが、練習を続けるなかで自信を持って活動することができ、先輩や外部講師の先生のおかげで今まで自分にはできないと思っていた表現の方法を発見することができました。今までは何をやるにも人のあとを付いていき、影でする仕事が多かったのですが、今後は自分から人前に出るような活動を行い、近松人形劇部の部長としてだけでなく、ひとりの学生として成長していきたいです。

(p46、「近松人形劇部」参照)



柴田 あすみ 4年次生
(陸上競技部 児童教育学科)
鳥取県立倉吉東高等学校出身

2016年に尼崎市が市制100周年を迎えました。これを記念して、「これまでの100周年をこれからの100周年につなげる」をテーマに、あまがすきハーフマラソンが尼崎の森中央緑地で開催されました。

陸上競技部からは20人がボランティアとして参加しました。そこで私たちは、このマラソンに参加した選手に、ゴール付近で給水する活動をしました。約8000人の参加者一人ひとりに「お疲れ様でした。」と声をかけながら、水の入ったペットボトルを手渡ししていきました。

私たちを含め、約1600人のボランティアの協力により、無事に大会を終えることができました。



吉田 ほなみ 4年次生
(つなgirl 人間看護学科)
兵庫県立川西緑台高等学校出身

大学を選んだからにはボランティアなど学業以外の活動も楽しみ、大学生活を充実させたいと思い、学生地域連携推進委員会「つなgirl」に入りました。日々の会議では、学生中心で進行していくなかで自分自身の弱みに気がつき、チームの中でどのような役割を担うことができるか、学ぶことができました。またキッズフェスティバルなどのイベントでも、企画から当日までたくさんの方々に支えていただいていることを実感しました。そして、活動の中で、様々な立場の方の考えや思いを知り、自分の考えの幅を広げることができました。つなgirlに所属したことで新たな出会いと、たくさんの発見がありました。今後もそれらを大切にし、自分の成長につなげていきたいと感じています。

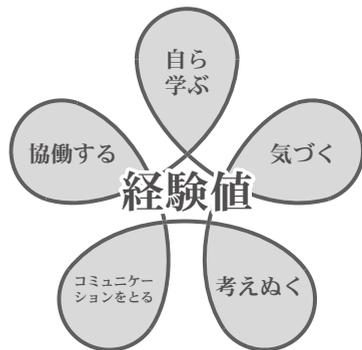
(p40、「学生地域連携推進委員会」参照)

〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育プログラム

平成28年度 文部科学省による中間評価において、
最高ランクの「S評価」を取得しました。

S評価…計画を超えた取り組みであり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

平成25年度、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」に採択されました。〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育プログラムとは、学部・学科を超えた横断的な教育・研究・社会貢献の体制です。尼崎市を中心とした地域での学びによって、経験値を高める教育を目指しています。また、健康づくり、学校教育、生涯学習、子ども・子育て支援の4部門を設け、地域課題の解決の一翼を担っています。今後も「地域と共に歩む大学」として、地域に開かれた大学づくりを推進していきます。



「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)

文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」は、大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています。

ひょうご神戸プラットフォーム

地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム事業 概要

事業のポイント①

プラットフォームの構築

神戸大学および県内COC大学がプラットフォームを構築し、各大学がこれまで培ってきた地域社会形成のための教育研究の成果を持ち寄ります。これらを広く波及させるため、「歴史と文化」「自然と環境」「子育て高齢化対策」「安心安全な地域社会」「イノベーション」の領域ごとに共同してテキストを作成し、教育プログラムを開発します。自治体、企業等の事業協働機関は、教育プログラム実施に協力します。

事業のポイント②

若者の地元定着

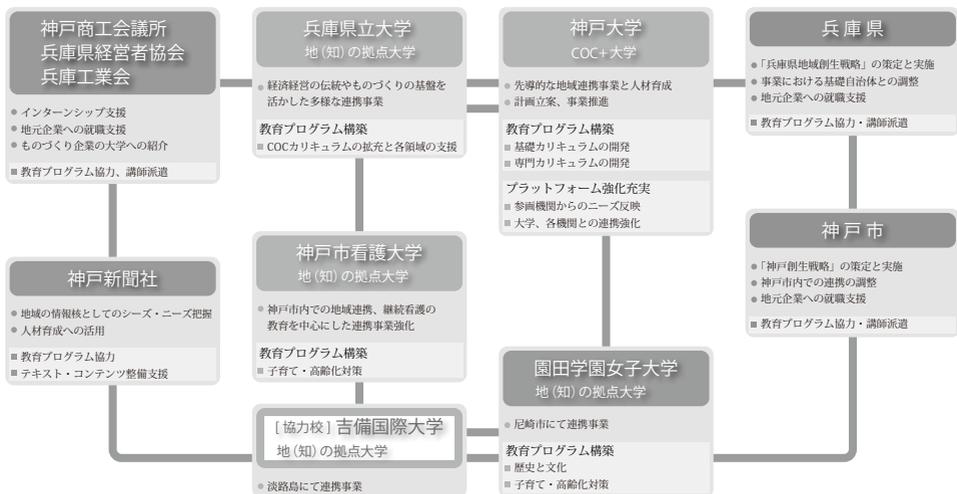
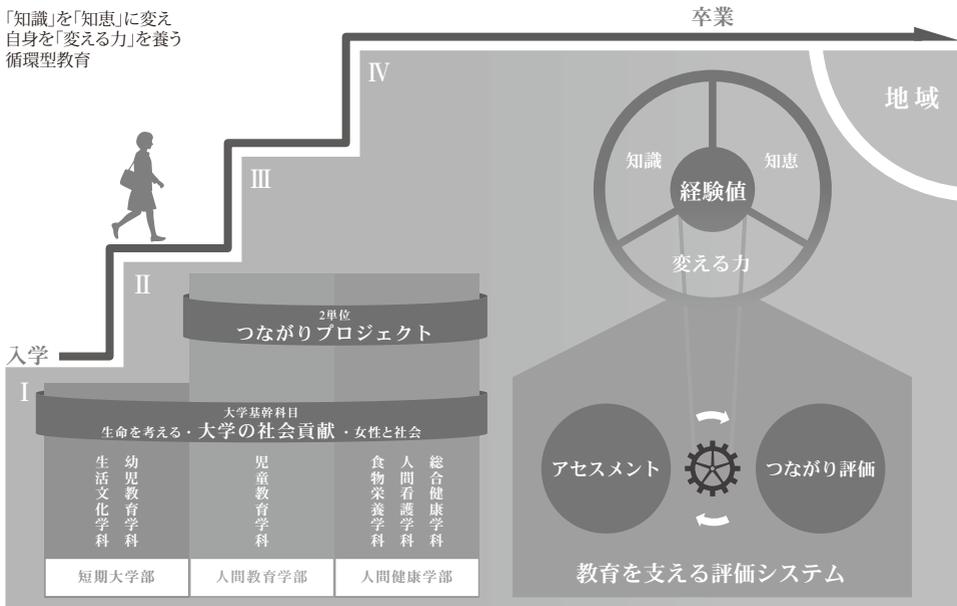
事業協働機関と連携し、様々なインターンシッププログラムを通して学生が地元の企業で働くことを体験します。新しく開発する地域志向科目の学びを通して、学生は地域への理解を深め、地元で暮らすこと、働くことの魅力を発見します。

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)

文部科学省が平成27年度から実施している地方創生に関する事業です。大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を行う大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。

経験値教育

「知識」を「知恵」に変え
自身を「変える力」を養う
循環型教育

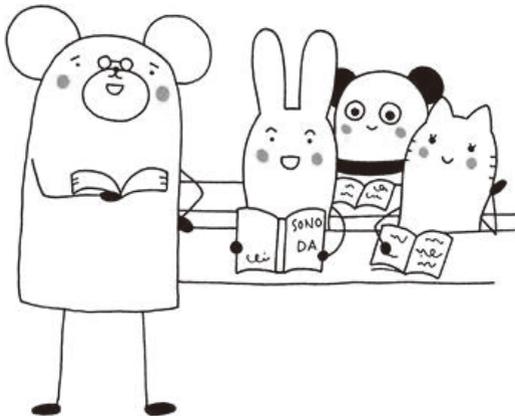


地域連携推進機構より



『「そのだ」の地域連携』も本号をもって5号目を迎えました。さまざまな地域活動に加えて、平成28年度には地域志向科目「つながりプロジェクト」がスタートしました。学生が地域に出る機会が増え、本号ではその経験のようすを数多く紹介させていただくことができました。このように多彩な活動を展開することが出来た結果、本学の取り組みである「〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育プログラム」は高い評価を受けました。ひとえに地域のみなさまのご協力があってこそと存じます。関係各位には、改めて御礼申し上げます。

平成25年度に採択されました「地（知）の拠点整備事業」は、本学の大学の使命である「女性」、「実学」、「地域」に浸透し、地域とともに歩みつつ発展する大学として、人と人の「つながり」を大切にし、地域活動をより充実した形で展開していきたいと考えています。これからも地域活動を通じて地域の皆様と本学のつながりが一層深いものとなりますことを願っています。





<奥付>

平成 29 年 11 月発行

発行所 園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部 地域連携推進機構

住所：〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町 7-29-1

電話：06-6429-9921(直通)

Fax：06-6422-8523(代表)

Mail：chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp

編集人 榎本匡晃 北恭子 高橋順美